

ユニオン

2023年7月15日 発行

2023年 夏号

<第58号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881



「ぼくの好きなこと」

ぼくの好きなことは『ひさつしごと人』『はぐれけいじじゅじょうは』みることです。ふじたまことが好きです。

ひとりであそびにいくのも好きです。ゴールでんういーくは、なかのしままつりにいきました。クレープをかってたべました。

ユニバーサルスタジをもいきました。とおいところは、みのおにいきました。たきをみました。

一人からおけもいきます。ほりうちたかおをうたいます。

すきなたべものは、カレーライスです。からいのもだいじょうぶです。

もらったこうちんで、えいようドリンクをかいます。ちよびたをかってのみます。げんきになります。

中務 耕平

生活介護事業所 和(なごみ)

企業の中で働く作業所として始まり、平成十年から小規模授産施設。その後、就労継続支援B型事業所として活動してきました。平成二十五年に事業形態を変え、生活介護事業所として場所も移転して現在に至ります。

和の歴史は古く、始まりは生野区にある企業に、利用者さんと保護者さんが一緒に通い、共に働くところから始まりました。利用者さんが単独で通えるようになってからは、職員と一緒に仕事をする場所となりました。

月日が経ち、働くだけでは楽しめないこともあって、現在は西区で仕事以外のこともして過ごせる場所として和があります。登所してから朝礼、体操の流れは同じですが、そこからはパソコンで動画を観る人、塗り絵をする人、ゆっくりと過ごす人、作業をする人、それぞれです。仕事は継続して、当時と同じ企業からの作業を受けています。これまでと同じように、作業す

月曜日は講師を招いて、ダンスをしています。年度初めに曲を決め、週一回の時間に練習をして、振付を覚え、一年通してひとつのダンスができます。昨年度は発表の場があって、観客の前でダンスを披露しました。他に、図書館活動や公園ウォーキングなどを定期的に行っています。

和を利用する、ひとりひとりが活き活きとして、尚且つ、和(輪)を大切にしようとして支援者は考えています。それが難しいこともあります。自閉的傾向が強い人は、他の人との共感や協調が難しいので、利用者さん同士のやり取りは支援者が間に入って調整をするものが多くなります。そのため、活動も少人数や一人だけで行うこともあります。ただ、同じ事業所で一緒に過ごしてきたことが皆の経験値となって、旅行などでは団体で行動しようとする雰囲気ができ、普段とは違った事業所としての一体感

を知ることができます。

.:.:.*.:.*.:.*.:.*.:.*

一昨年度から、支援者間で利用者さんのコミュニケーションを増やすことを考えました。相手の嫌なところが指摘し、注意することが目立っていたからです。まずは、利用者さん全員が自然な気持ちで過ごせる場所作りに取り組みました。それから、お互いに認め合う関係作りを目指しました。衣服の乱れをあまり気にしない利用者さんが注意をされてしまったときや、物の置き場所への拘りから、周りを気にせず行動してし

まい、他の人が怒ってしまいました。そのような場面では、互いの距離を離すことや、先回りして動線を分けて衝突を避けることを優先していたところを、利用者さん同士で話し合ってみる提案をしてみました。そうすると、相手に気持ちを伝えることで、意外とすぐに納得できました。

上手く言葉を使えない利用者さんもいるので、会話は成立しないこともありま。しかし、相手に気持ちを伝えたこと、相手が自分に何かを言っていたという感情は残り、後日、笑って話しかう姿が見られることもありました。理解できない相手だと避けず、話し合った状況が相手と認め合うことに繋がった瞬間です。

利用者さんは個性的な方が多く、各々の拘り部分もいっぱいあります。そのなかで互いを認め合い、優しさ(和)がある事業所であり続けたいと思います。

(野崎)

4年ぶりに

踊ったぜ!!



今年の2月に合同会社ら
いと(以下「らいと」とワ
ークスユニオンの合同で
『TOZ(楽しく踊ろうぜ)
ダンスフェス』(以下「TO
Z」を行いました。「TOZ」
は実に4年ぶりで、「らいと」
とワークスユニオンの職員
と講師で打合せを繰り返し
行い、開催ができました。
ワークスユニオンの生活
介護事業所「和」、「匠」、ダ
ンスクラブ「UNION★
STARS」のメンバーは、
毎週講師の瀬口先生と一緒
に発表に向けて、練習を頑
張りました。

なかなかモチベーション
が上がらず、練習にしばら
く参加しなかった利用者さ
んもいましたが、瀬口先生
と職員で時間をかけて本人
に寄り添い、最終的には、踊
りもしっかり覚えて参加出
来ました。

結成10周年を迎えた「U
NION★STARS」は、

前日に初めての合宿を行い、
結束力を高め、本番では10
年間踊ってきた曲を繋ぎ合
わせて10周年記念のダンス
を踊りました。

「らいと」は若い利用者
さんが多く、チームごとに
元気いっぱいダンスを見
せてくれました。ダンス以

外にも、「匠」の送迎車運転
手さんが組んでいる「アゲ
インバンド」や、元職員によ
るライブなどもあり、盛り
沢山の内容でした。ファイナ
ーレでは、「マツケンサンバ」
と「YMCA」の曲が流れる
と、会場全体が一体となっ
て、歌って踊って最後まで
大盛り上がりでした。
新型コロナウイルスによ
る制限が緩和され、やっと
色々なイベントが開催でき
るようになってきました。
「TOZ」は、元々毎年開催
のイベントではありません
が、今後も利用者さんが楽
しめるイベントを行ってい
きたいと思えます。(横田)

みっちゃん

こいのぼり



ゴールデンウィークの間
に「和」の道田さん(みっ
ちゃん)が作ったたくさんの
こいのぼりが鳴野商店街を
気持ちよさそうに泳いでい
ました。城東区の事業所「そ
うそうの杜」の職員が「和」
に見学に来られた時に、こ
いのぼりをプレゼントした
ことがきっかけで、商店街
に飾ってもらうことになり
ました。
道田さんのこいのぼりの
ルーツは小学校1年生にさ
かのぼります。ユラユラと
揺れるものに興味をひかれ、
登校時に交差点にある横断
旗を見て嬉しそうに笑って
いたそうです。また、職員室
にある旗の場所を何故か知
っていた事もあったようで、
先生に「旗の匂いでもわか
るんか？」と驚かれたエピ
ソードもあつたそうです。

こいのぼりが気になり始
めたのは、高校生の頃で母
と一緒にお気に入りのこい
のぼりを見に百貨店へ行っ

たそうです。

布にこいのぼりの絵を書
き出したのは、20歳前後、
本格的に作り始めたのは24
歳くらいになってから。
こいのぼりの材料などは、
「和」の工賃で賄っており、
母と一緒に本町まで生地を
買いに行っています。作成
に取り組む前に色んな種類
のこいのぼりの画像をみて
気に入った絵をじつと見た
後に作り始めています。
自分なりのこいのぼりを
イメージしているように見
えます。道田さんにとって
「こいのぼり作り」は、ライ
フスタイルとなっており、
最近では、作成に思うがま
ま取り組まれており表情も
とても穏やかです。(島村)

めたのは、高校生の頃で母
と一緒にお気に入りのこい
のぼりを見に百貨店へ行っ



我が家には、おてんば娘で兎の「ラン」がいることは何度かご紹介したので皆さんにも覚えていただいていると思うが、彼女を我が家に迎えた頃に、妻は古くなっていった私のカバンを買って替えてくれた。

数日後、出勤しようとカバンを持った私は愕然とした。なんと新品のカバンに大きな穴が開いていたのだ。犯人は、ランに間違いない。

でも非は、ランではなく私にある。ランを部屋に戻し施設するのを怠ったのだから。妻と一人で「ランにしてやられたね」と笑ってしまった。

妻は、文句も言わず再度同じカバンを買ってくれた。

ワークスユニオンでも、「部屋に置いていたお菓子を誰かが食べた。」「お金がなくなった。」と言うような事象は時々起こる。

自分の物を、食べられたり取られたりした利用者にとつては、一大事なのだ。が・・・。

誰であれ、人の物を取ったり食べたりするのは悪いことだ。しかし、目の前においしそうなお菓子やお金があると、悪いことは分かっているてもつい手を出してしまう場合もある。

食べられたり、取られたりした人の方にも、多少の非がある場合も結構ある。それは、自分の物の管理の甘さで自分の物を取られない努力もして欲しい。

職員の皆さんには、それぞれの利用者の理解力や拘りや行動特性も含めて判断し、「取れない環境」「取れない環境」両方の整備をお願いしたい。

職員紹介

金根植(もと)一匠

大韓民国出身の金さんは、ソウルで十数年英語の先生をしていました。日本人の奥さまが介護の仕事をしており、その話を聞き、福祉の世界に興味を持ったそうです。

映像や写真が趣味で、動画配信サービスで毎週動画を2時間弱見ています。

法人の『利用者さんのペリスを大切にする』スタイルが気に入ったそうで、人との触れあいが好きな金さんに相まって、今の環境はとても仕事しやすいそうです。

利用者さんだけでなく、他の職員のことにも気配りする紳士でおしゃれな金さんは、「みんな縁なので元気に長く仕事が出来たらいいですね」と熱いメッセージをくれました。

佐竹健(けん)一メン

長年コープに勤務されていましたが、奥さまが福祉関係の仕事をしていることから、自分も福祉の仕事に興味を持ち、資格を取得後入職しました。

お酒が大好きで、仕事から帰宅すると奥さまと晩酌をすることが日課だそうです。奥さまと休みが合えば一緒に映画を見に行くこともあるそうです。

グループホームでは夕方利用者さんが帰宅されてから、一気ににぎやかな雰囲気になります。この時感じられる利用者さんの人間味や個性が好きで、「毎日楽しく仕事ができています」と笑顔で話していました。

編集後記

▼最近、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行くことが多い。ゲスト(お客さん)は思い思いの装飾品やグッズを持って来園することが多いが、クルー(従業員)の目配り・気配りに感心してしまふ。すれ違う瞬間などにゲストの持ち物などを見たらうえてコミュニケーションを取り、気分をより高揚させてくれる。▼クルーに話しかけられた時は「私を見てくれた」という心地よい気持ちになる。支援でも、職員の目配り・気配り次第では、利用者さんもしっかりと同じ気持ちになるだろうと感じる出来事であった。▼私たちは『鳥の目』と『虫の目』を使いながら支援をすることが重要と言われる。利用者さんのことを深く知ることが大事という意味だが、業務に追われてしまい、疎かになる時もある。襟を正して支援にあたらうと思った。(丁)

(川口・濱野)